



英和技研に入社したきっかけは「会社見学で雰囲気良かったから」。進路指導で紹介され偶然飛び込んだ左官の道だが、4年目となった今で

天職の左官で次のステージへ

英和技研(宇都宮市)

あだち ゆい
安達 結さん

は「天職だと思う。仕事が楽しい」と笑みがこぼれる。センスも良く、「仕事の飲み込みが抜群に速い」と鈴木隆之社長のお墨付き。期待の若手として現場を引っ張る。若手、女性の積極採用を掲げる同社だが、入社当時はトイレや産休、育休などについて不安もあった。新人の頃、周りが気を使って代わりに仕事をやってしまうことも。いざ1人で仕事を任せられた時は苦労も多かったという。だがめきめきと腕を上げ、今は逆に頼られる存在に変わりつつある。産休や育休も先輩社員が実際に制度を利用する様子を見て「今は安心して働ける」。

昨年、左官の栃木県代表として技能五輪の全国大会に出場。日頃の鍛錬の成果を発揮し、敢闘賞を獲得した。これを糧に次のステップへ進み、次の目標は「左官技能検定1級の合格」、将来は「神社仏閣の仕事をやってみたい」と先を見据えている。左官職人としてしつこい仕上げを担当するのは「夢」と語る。

目標とするのは田代友和専務。「動きに無駄がない。しかも妥協せず常に100%で取り組む」と憧れの存在だ。一方で「10年で超える」と意欲を隠さない。そのためにも「作業の段取り、流れをもっと改善したい」と向上心を持ち続ける。

